

2022年1月9日 聖餐式説教

1月6日は、星の導きによって主イエスを拝しに来た東の国の博士達を記念する顕現日でした。この日は、東の国の博士達に星が現れ、主イエスのもとへ贈り物を携えてやってきたことを記念する日ですが、実はそれだけでなく、主イエスによってこのよにもたらされた天国の力、すなわち様々な教えや業がこの世に現され、その栄光を示したことを記念するときでもあります。本年は復活日が4月17日になる関係上、顕現節も2月末まで続いて行くこととなります。顕現の意味を味わいつつ、過ごしてまいりたいと思います。

さて、本日の福音書は主イエス様が洗礼を受けられた場面でありました。本日はそのことを中心に考えてみたいと思います。

民衆は救い主を待ち望んでいた。最初のところでこう記されておりました。紀元前六三年、ローマ帝国はイスラエルすなわちパレスチナ地方を占領しました。主イエス様が誕生された時、ヘロデ王がいながらポンテオ・ピラトがローマから派遣された総督として君臨し、事実上すべての権力を握っていたのはこのような理由によります。ローマはユダヤの人々に税金を課し、圧制をしておりましたので、ユダヤの人々はローマ帝国に対し憎しみを抱くようになっていました。熱心党と呼ばれる人々は実力でローマからの解放を実現しようとしておりました。主イエスの弟子の中に熱心党のシモンという人がいますが、この熱心党の一員だった人です。救い主を待ち望むというのは他でもなく、ローマの圧制から自分を救ってくれる人を待ち望んでいたのです。人々の中に突然のように現れて洗礼を施していたヨハネに人々の期待が集まったのは当然のことでした。しかしヨハネは、自分はそのような者ではない、と言います。自分は救い主の先駆けとしてこの世に来た、いわば露払い的者であることを示すと共に、救い主は単にローマの圧制から救うために来るのではない、神と人との関係において人間を救うためにこの世に来られることを示したのです。

さて、洗礼とはどういうことでしょうか。私たちの教会では額に三回水を注いで行いますが、これは罪を洗い流すということを現しています。教派によっては全身を水に入れてそのことを現すところもあります。そして罪を洗い流すことによって古い罪の存在から、新しい命の存在へ、神につながれた者となるということでもあります。すなわち罪のうちに生まれた私たちにもたらされた救いの業であるのです。それを主イエス様が受けられたというのはどういうこと

でしょうか。主は罪のうちにお生まれになったのではありません。神の御子である主イエスが、洗礼を受ける必要のない主イエスがどうして洗礼を受けられたのでしょうか。

それは第一に主イエスは私たちに模範を示されたのであります。他国の圧制や他人の干渉を批判したり崩そうとしたりする前に、自分自身の悔い改めが最初にあるべきであり、悔い改めなしに新しい道を、主イエスの示された道を進むことは出来ないのを示すためでありました。当時ユダヤの人々は自分達が神によって義と認められたアブラハムの子であると主張し、自らの行いよりもアブラハムの子孫を重んじてそのゆえに救われると考えていたのです。ヨハネはそれに対して厳しく批判を致しました。主イエスはさらに自らが洗礼を受けることによって、悔い改めを示したのでした。

第二は大変重要です。主イエスは洗礼を受けられた後、この世における苦難に満ちた伝道活動をはじめられました。洗礼を受けられた時、天から神の声が聞こえました。これこそは主イエスに対する神からの派遣のメッセージであったのです。洗礼は神によってつながれた者の、この世への派遣の式でもあるのです。洗礼を受けた私たちは皆、キリストの忠実な僕として、この世での神の業に遣わされているのです。主イエスの洗礼は、私たちが神からこの世へ遣わされたものであることをも示しているのです。

本日は主イエスの洗礼を記念し、私たちに神から与えられている使命を振り返ってみたいものであります。